

令和元年度 下仁田町の財務書類 (統一的な基準)



下 仁 田 町
総務課(財政係)

目次

I	地方公会計制度の概要	
1.	下仁田町財務書類の公表について	3
2.	財務書類4表とは	3
3.	作成の前提条件等	3
4.	財務書類の対象会計等	5
5.	財務書類4表の関係	6
II	普通会計の	
1.	貸借対照表（バランスシート）	7
2.	行政コスト計算書	12
3.	純資産変動計算書	16
4.	資金収支計算書	18
III	資料編	
1.	普通会計 財務書類4表	21
2.	地方公共団体単体 財務書類4表	27
3.	連結会計 財務書類4表	33

I 地方公会計制度の概要

1. 下仁田町財務書類の公表について

現行の地方公共団体の予算・決算に係る会計制度（官公庁会計）は、現金収支（歳入・歳出・収支決算）の単式簿記による現金主義会計が採用されており、民間企業等の複式簿記による発生主義会計に比べ、資産・負債の増減、引当金や減価償却の概念がないため、ストック（残高）情報を把握することが困難で、全体としての財政状況がわかりにくいという問題点を抱えています。

この課題を解決するため、地方公共団体に民間企業が採用している複式簿記・発生主義会計の考え方を取り入れる取組が動き出し、平成27年1月23日に総務大臣から要請された「統一的な基準による地方公会計の整備について」により、統一的な基準による財務書類を作成し、これを公表します。

2. 財務書類4表とは

財務書類4表とは、「貸借対照表（バランスシート）」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」の総称であり、官公庁会計における「単式簿記」「現金主義」で作成した歳入歳出決算書とは異なり、民間企業などにおける「複式簿記」「発生主義」の考え方を取り入れて作成されたものです。

財務書類4表を作成することで、現金主義の会計制度では把握することが難しい資産や債務などのストック情報や行政コストなどを把握することが容易となります。

3. 作成の前提条件等

下仁田町の財務書類は、平成27年1月に総務省が公表した「統一的な基準による地方公会計マニュアル」に基づき、下記の条件のもとに作成しています。

(1) 対象年度

令和元年度の決算に基づいて作成します。

一時点の財務状況を表わす貸借対照表の作成基準日は、令和2年3月31日とします。また、一定期間の収支の流れを表す行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の基準となる期間は、令和元年4月1日から令和2年3月31日までの間としますが、令和2年4月1日から5月31日までの出納整理期間の出入金も含めています。

(2) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達価格としています。ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価格1円としています。また開始後については、原則として取得原価とし、再調

達は行わないこととしています。

(3) 有価証券等の評価基準及び評価方法

出資金のうち、市場価格があるものは、会計年度末における市場価格をもって、市場価格の無いものは出資金額をもって貸借対照表価格としています。

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

土地以外の有形固定資産については、減価償却をしています。減価償却は、統一的な基準による地方公会計マニュアルで設定された耐用年数に基づき定額法で計算しています。

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

徴収不能引当金は、過去5年間の不納欠損率により計上しています。

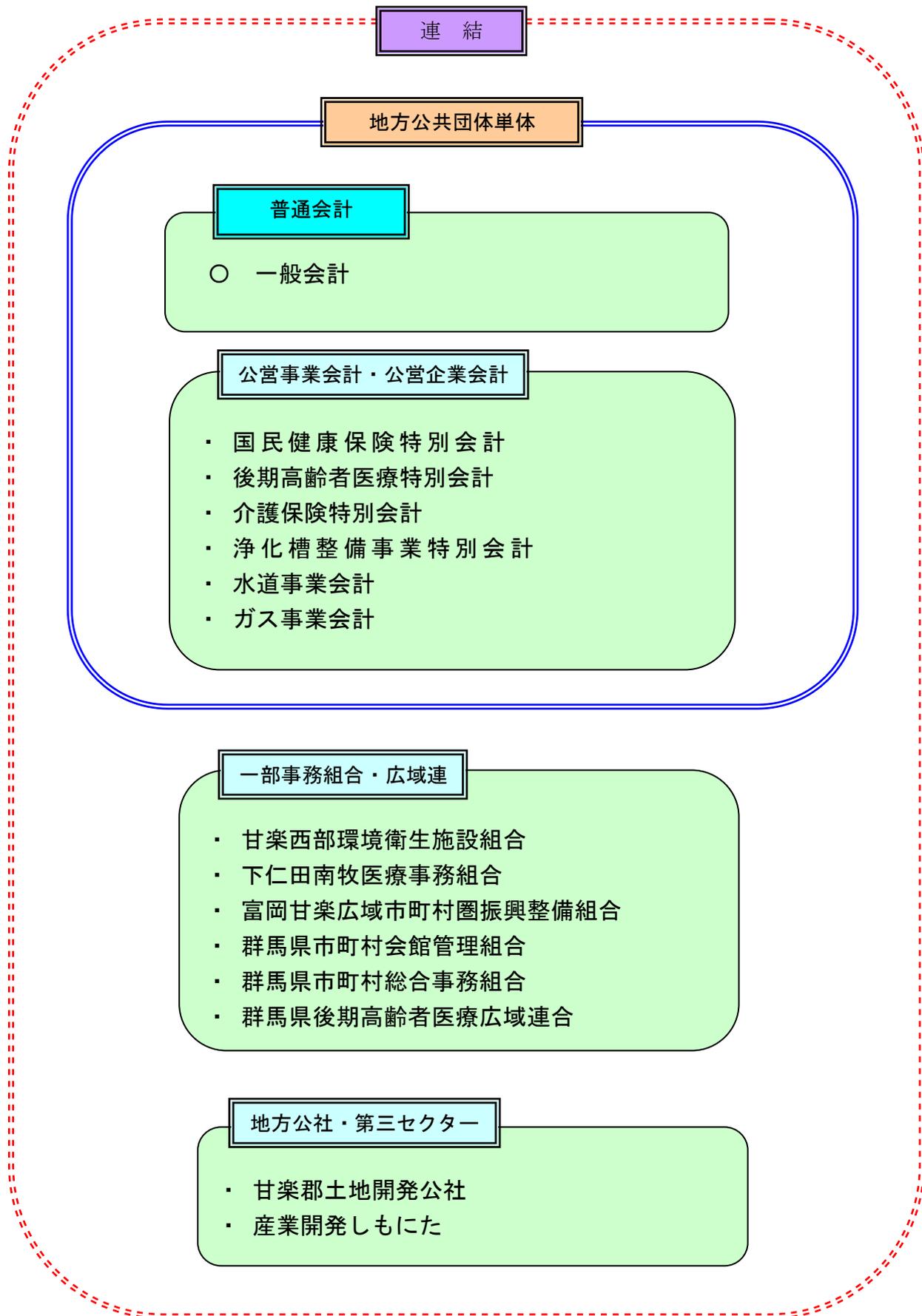
賞与引当金は、翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しています。

退職給付引当金は、退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額及び既に職員に対して退職手当として支給された額の総額を控除した額がマイナスであるため、その絶対額と、職員全員が当該年度末時点で普通退職した場合に必要な退職手当額見込み額の合計を計上しています。

(6) 対象会計範囲

今回の財務書類の作成は、町の普通会計の他、特別会計、企業会計、一部事務組合等も行います。最終的には一つにまとめた地方公共団体全体の財務書類及び連結財務書類を作成しますが、その対象となる会計の範囲は次の通りです。

4. 財務書類の対象会計等



5. 財務書類4表の関係

貸借対照表(バランスシート)

借方 所有している 資産の状況	貸方 資産を取得した 財源等
資産 (17,172,853,216円)	負債 (将来世代への負担) (6,868,147,020円)
(うち預金・現金) (115,404,118円)	純資産 (これまでの蓄積) (10,304,706,196円)

行政コスト計算書

経常費用 (4,080,498,839円)	—	経常収益 (141,307,183円)
+		
臨時損失 (279,256,150円)	—	臨時利益 (99,200円)
純行政コスト (4,218,348,606円)		

資金収支計算書

前年度末資金残高 (103,033,710円)	
+	
業務活動収入 (4,681,293,966円)	— 業務活動支出 (3,943,950,850円)
+	
投資活動収入 (230,069,908円)	— 投資活動支出 (849,250,169円)
+	
財務活動収入 (505,800,000円)	— 財務活動支出 (631,760,704円)
年度末資金残高 (95,235,861円)	

純資産変動計算書

前年度末純資産残高 (9,942,524,192円)	
+	
本年度末 純資産 変動 額	財源 (4,585,743,726円)
	+
	資産評価差額等 (△ 5,213,116円)
	+
	純行政コスト (4,218,348,606円)
本年度末純資産残高 (10,304,706,196円)	

本年度末歳計外現金
(20,168,257円)

- ◎ 貸借対照表の資産のうち『現金・預金』の金額は、資金収支計算書の本年度末資産残高と本年度末歳計外現金残高の合計額と一致します。
- ◎ 貸借対照表の資産の『純資産(資産と負債の差として計算)』の金額は、純資産変動計算書の本年度末純資産残高と一致します。
- ◎ 行政コスト計算書の『純行政コスト』の金額は、純資産計算書に記載されます。

Ⅱ 普通会計

1. 貸借対照表（バランスシート）

(1) 貸借対照表（バランスシート）とは

貸借対照表とは、自治体が住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源でまかなってきたかを明らかにするもので、借方(資産)と貸方(負債・純資産)の合計が一致していることからバランスシートと呼ばれています。

(2) 貸借対照表(バランスシート)の概要

普通会計貸借対照表

(令和2年3月31日現在)

(単位：千円)

借		方		貸		方	
[資産の部]				[負債の部]			
1	固定資産	15,872,817		1	固定負債	6,142,504	
	(1) 有形固定資産	11,989,486			(1) 地方債	4,699,737	
	事業用資産	7,266,914			(2) 退職手当引当金	1,442,767	
	インフラ資産	4,659,008			(3) その他		
	物品	846,607					
	物品減価償却額累計	△ 783,043		2	流動負債	725,643	
	(2) 無形固定資産				(1) 翌年度償還予定地方債	639,432	
	(3) 投資その他の資産	3,883,331			(2) 賞与等引当金	66,043	
	投資及び出資金	2,906,504			(3) 預り金	20,168	
	長期延滞債権	10,924			(4) その他		
	基金	966,046					
	徴収不能引当金	△ 142			負債合計	6,868,147	
2	流動資産	1,300,036			(前年度末合計)	7,020,205	
	(1) 現金預金	115,404			(増減)	△ 152,058	
	(2) 未収金	2,195		[純資産の部]			
	(3) 短期貸付金			1	固定資産等形成分	17,055,283	
	(4) 基金	1,182,466		2	余剰分(不足分)	△ 6,750,577	
	(5) 徴収不能引当金	△ 29					
					純資産合計	10,304,706	
					(前年度末合計)	9,942,524	
					(増減)	362,182	
	資産合計	17,172,853			負債・純資産合計	17,172,853	
	(前年度末合計)	16,962,729			(前年度末合計)	16,962,729	
	(増減)	210,124			(増減)	210,124	

<<資産の部>>

① 有形固定資産

長期間にわたり住民サービスの提供に使用されるもので、具体的には土地・建物等が該当し、全体で119億8,949万円あります。

【有形固定資産】

(単位：千円)

区 分	平成30年度末残高	令和元年度末残高	増 減
土地	3,438,846	3,398,602	△ 40,244
建物	4,458,511	4,199,744	△ 258,767
取得価格等	10,699,849	9,599,393	△ 1,100,456
減価償却累計	△ 6,241,338	△ 5,399,649	841,689
工作物	3,950,383	3,910,671	△ 39,712
取得価格等	23,747,340	23,582,697	△ 164,643
減価償却累計	△ 19,796,957	△ 19,672,026	124,931
建設仮勘定	109,495	240,007	130,512
立木竹	176,898	176,898	
物品	88,849	63,564	△ 25,285
取得価格等	917,502	846,607	△ 70,895
減価償却額累計	△ 828,653	△ 783,043	45,610
合 計	12,222,982	11,989,486	△ 233,496

② 投資及び出資金

下仁田町から他の団体への投資及び出資は以下のとおりです。

【主な投資及び出資金先】

(単位：千円)

区 分	主 な 出 資	平成30年度末残高	令和元年度末残高	増 減
連結対象団体	下仁田南牧医療事務組合	2,460,590	2,509,048	48,458
	水道事業	325,978	353,503	27,525
	ガス事業	22,800		△ 22,800
	有限会社産業開発しもにた	5,000	5,000	
	甘楽郡土地開発公社出資金	1,250		△ 1,250
連結対象団体以外	群馬県信用保証協会出資金	16,700	16,700	
	群馬県森林組合作業班員等雇用安定基金基本財産出資金	10,000	10,000	
	下仁田町森林組合出資金	2,988	2,988	
	群馬県農業信用基金協会出資金	2,520	2,520	
	その他	6,745	6,745	
合 計		2,854,571	2,906,504	51,933

③ 現金預金

現金預金は「流動資産」と区分され、必要に応じてすぐに使える資産とされており、歳入歳出差引額と預かり金の合計で1億1,540万円あります。

【預金・現金の状況】

(単位：千円)

区 分	平成30年度末残高	令和元年度末残高	増 減
歳 入 歳 出 差 引 額	103,034	95,236	△ 7,798
年 度 末 歳 計 外 現 金	21,174	20,168	△ 1,006
合 計	124,208	115,404	△ 8,804

④ 基金

基金は、財源が不足した場合に備えて積み立てている財政調整基金、地方債償還のため、つまり借金返済のために積み立てている減債基金、特定の目的のために資金を積み立てる（資金を使用する際は、積み立てた基金を取り崩して使用する）特定目的基金と、特定の目的のために定額の資金を運用する（資金を使用する際は、基金の運用益を使用する）定額運用基金に分けられ21億4,851万円あります。

【基金の状況】

（単位：千円）

区 分	基 金 の 名 称	平成30年度末 残 高	令和元年度末 残 高	増 減
財政調整基金	財政調整基金	1,160,346	1,182,466	22,120
減債基金	減債基金	14,650	14,652	2
特定目的基金	下仁田町公共施設等整備基金		349,416	349,416
	ねぎとこんにやく下仁田奨学金基金	54,967	72,984	18,017
	下仁田町都市計画区域公共施設等整備基金		58,330	58,330
	ふるさと下仁田応援基金	40,970	48,714	7,744
	荒船風穴基金	22,371	26,154	3,783
	下仁田町子育て支援基金	34,097	21,423	△ 12,674
	下仁田町森林環境譲与税基金		14,148	14,148
	道の駅しもにた基金	3,538	4,538	1,000
	中西文庫基金	3,424	3,224	△ 200
	町立学校施設基金	2,406	2,559	153
	町営住宅敷金利子運用基金	2,031	2,032	1
	水道事業基金	1,107	1,107	
	都市計画事業基金	58,321		△ 58,321
定額運用基金	用品調達基金	3,000	3,000	
	下仁田町収入印紙等購買基金	1,000	1,000	
	土地開発基金(現金)	111,676	115,794	4,118
	土地開発基金(貸付)	5,000		△ 5,000
	土地開発基金(土地)	226,041	226,971	930
合 計		1,744,945	2,148,512	403,567

⑤ 長期延滞債権・未収金・徴収不能引当金

税金や使用料などで納付期限を過ぎても収入されていない債権は、今後収入になる見込みのため資産として計上します。収入未済額のうち、令和元年度中に生じたものを未収金、平成30年度以前に生じたものを長期延滞債権として計上しています。

また、徴収不能引当金は、長期延滞債権・未収金のうち過去の実績を考慮し、将来回収不能と見積もった額であり、既に回収しきれなかった額を示すものではありません。

【収入未済額等の内訳】

（単位：千円）

区 分		平成30年度末 残 高	令和元年度末 残 高	増 減
長期延滞債権	地 方 税 等	6,342	4,704	△ 1,638
	使 用 料 等	7,193	6,219	△ 974
未 収 金	地 方 税 等	2,786	2,025	△ 761
	使 用 料 等	90	170	80
徴 収 不 能 引 当 金	固 定 資 産	△ 322	△ 142	180
	流 動 資 産	△ 68	△ 29	39

＜＜負債の部＞＞

① 地方債・1年内償還予定地方債

固定負債である地方債は、翌々年度以降の償還見込額で、1年内償還予定地方債は、流動負債に計上されています。したがって当年度末の町債未償還残高は、固定負債の地方債の額と流動負債の翌年度償還予定額との合計額の53億3,917万円となります。

地方債は少ないに越したことはありませんが、将来にわたって利用する公共資産を取得する場合に、現役世代のみに負担を課するのではなく、将来世代にも負担を課することで、世代間の負担の公平性を図るために利用されます。

【地方債の内訳】

(単位：千円)

区 分	平成30年度末残高	令和元年度中増減		令和元年度末残高
		発行額	元金	
普通債	3,106,850	272,700	452,720	2,926,830
総務債	269,953	8,800	48,156	230,597
民生債				
衛生債	517,435	74,500	71,950	519,985
農林水産業債	118,186	35,900	30,222	123,864
商工債	373,747	7,400	45,610	335,537
土木債	589,040	64,500	89,345	564,195
消防債	245,316	71,500	36,731	280,085
教育債	993,173	10,100	130,706	872,567
諸支出金債				
災害復旧債	5,316	121,500	1,604	111,112
農林水産業債		13,800		13,800
土木債	5,316	93,600	1,604	97,312
教育債				
その他	2,352,964	111,600	177,437	2,287,127
減税補填債	20,869		5,366	15,503
臨時減収補填債				
臨時財政対策債	2,332,095	111,600	172,071	2,271,624
合計	5,465,130	505,800	631,761	5,339,169

【各会計等の地方債等残高（参考）】

区 分	平成30年度末残高	令和元年度末残高	増減	
地方公共団体 単体 (案分無)	一般会計	5,465,130	5,339,169	△ 125,961
	浄化槽整備事業特別会計	98,237	95,053	△ 3,184
	水道事業会計	1,031,785	937,678	△ 94,107
	甘楽郡土地開発公社	5,000		△ 5,000
連結 (持分数値)	甘楽西部環境衛生施設組合	26,924	17,994	△ 8,930
	下仁田南牧医療事務組合	910,262	858,507	△ 51,755
	富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合	80,639	103,597	22,958
合 計	7,617,977	7,351,998	△ 265,979	
交付税算入見込み(健全化4⑩)	5,126,529	4,839,686	△ 286,843	
交付税算入率	67.3%	65.8%		

② 退職手当引当金

退職手当組合に加入し組合に負担金を支出しているため、直接の退職手当支給はありませんが、職員全員が当該年度末時点で普通退職した場合に必要な退職手当額見込み額8億8,598万円と、組合加入時以降の負担金累計額と既に職員に対して退職手当として支給された額の総額の差額5億5,679万円の合計である14億4,277万円を計上しています。

【退職手当引当金の内訳】

(単位：千円)

区 分	平成30年度末 残 高	令和元年度末 残 高	増 減
年度末普通退職手当金見込み額	951,698	885,982	△ 65,716
退職手当組合に対する負担金累計額－退職手当支給額の差額－退職手当組合脱退清算金相当額	514,630	556,785	42,155
合 計	1,466,328	1,442,767	△ 23,561

③ 賞与等引当金等

6月に期末手当及び勤勉手当が職員に支給されますが、これは12月から5月までを支給対象期間とすることから、基準年度末までの分に該当する6分の4を負債として計上します。

また、預り金は、資産の部の預金現金に同額が計上されています。

【賞与等引当金等の状況】

(単位：千円)

区 分	平成30年度末 残 高	令和元年度末 残 高	増 減
賞 与 等 引 当 金	67,573	66,043	△ 1,530
預 り 金	21,174	20,168	△ 1,006
合 計	88,747	86,211	△ 2,536

＜＜純資産の部＞＞

① 固定資産等形成分

資産合計171億7,285万円から流動資産である預金現金・未収金・徴収不能引当金を除いた部分の170億5,528万円を固定資産等形成分として計上してあります。

② 余剰分（不足分）

資産の内預金現金・未収金・徴収不能引当金の1億1,757万円と負債合計68億6,815万円の差額が余剰分（不足分）として計上され、多くの地方公共団体は、よほど財源に余裕がない限りマイナスになると予想されており、当町も△67億5,058万円とマイナス計上となっています。

このような状況が発生するのは、臨時財政対策債などの公共資産等の形成を伴わない地方債が多額である事、退職手当引当金として計上した経費の財源として積立金がない事などが上げられ、この経費は全額将来の税收等に依存していると考えられるためです。

しかし、地方債のうち臨時財政対策債などは、地方交付税の代替え措置として発行が認められたもので、償還の財源が将来の地方交付税収入により賄われることが約束されており、その分を現金などの資産として考えれば実質的にマイナス分の減額として捉えることも可能です。

【純資産の部の状況】

（単位：千円）

区 分	平成30年度末 残 高	令和元年度末 残 高	増 減
固 定 資 産 等 形 成 分	16,835,714	17,055,283	219,569
余 剰 分 （ 不 足 分 ）	△ 6,893,190	△ 6,750,577	142,613
合 計	9,942,524	10,304,706	362,182

2. 行政コスト計算書

(1) 行政コスト計算書とは

行政コスト計算書は、4月1日から翌年の3月31日までの1年間に行った人的なサービスや給付サービスなど、資産形成にはつながらない活動について、どのくらいコスト（資源の消費）をかけたかを表示したものです。

(2) 行政コスト計算書の概要

【普通会計行政コスト計算書】

【経常行政コスト】

(単位：千円)

区 分		平成30年度末		令和元年度末		増減	
		コスト	(構成比率)	コスト	(構成比率)		
1	人にかかるコスト	職員給与費	819,415	20.5%	823,813	20.2%	4,398
		賞与等引当金繰入額	67,573	1.7%	66,043	1.6%	△ 1,530
		退職手当引当金繰入額					
		その他	64,865	1.6%	65,384	1.6%	519
	小 計	951,853	23.9%	955,240	23.4%	3,387	
2	物にかかるコスト	物件費	807,101	20.2%	767,155	18.8%	△ 39,946
		維持補修費	8,038	0.2%	69,196	1.7%	61,158
		減価償却費	374,565	9.4%	392,555	9.6%	17,990
		その他					
	小 計	1,189,704	29.8%	1,228,906	30.1%	39,202	
3	移転 支出 的な コスト	補助金等	1,196,887	30.0%	1,235,789	30.3%	38,902
		社会保障給付	302,761	7.6%	300,941	7.4%	△ 1,820
		他会計への繰出金	288,924	7.2%	306,073	7.5%	17,149
		その他	442	0.0%	1,891	0.0%	1,449
	小 計	1,789,014	44.9%	1,844,694	45.2%	55,680	
4	その 他の 行政 コスト	支払利息	33,717	0.8%	28,466	0.7%	△ 5,251
		徴収不能引当金繰入額	220	0.0%	171	0.0%	△ 49
		その他	23,827	0.6%	23,022	0.6%	△ 805
		小 計	57,764	1.4%	51,659	1.3%	△ 6,105
経常行政コスト A		3,988,335	100.0%	4,080,499	100.0%	92,164	

【経常収益】

1	使用料及び手数料	35,872		38,701		2,829
2	その他	78,838		102,606		23,768
経常収益 B		114,710		141,307		26,597

(差引) 純経常行政コスト C = A - B

		3,873,625		3,939,192		
--	--	-----------	--	-----------	--	--

【臨時損失】

1	災害復旧事業費			232,136		232,136
2	資産除売却損	204,893		47,120		△ 157,773
3	投資損失引当金繰入額					
4	損失補償等引当金繰入額					
臨時損失 C		204,893		279,256		74,363

【臨時利益】

1	資産売却益	507		99		△ 408
2	その他					
臨時利益 D		507		99		△ 408

純行政コスト E = A - B + C - D		4,078,011		4,218,349		140,338
--------------------------	--	-----------	--	-----------	--	---------

<<経常行政コストの部>>

① 人にかかるコスト

人件費は、行政サービスの担い手である職員・議員に要する経費で、8億2,381万円(20.2%)を計上しています。

賞与引当金繰入額・退職手当引当金繰入等は、当該年度に引当金としてバランスシートに繰り入れた金額を、コストとして計上しています。

その他については、区長等非常勤特別職の報酬で、6,538万円(1.6%)です。

② 物にかかるコスト

物件費は、賃金・旅費・需用費・役務費・委託料・備品購入費等の、短期間で消費する経費で7億6,716万円(18.8%)を計上しています。

維持補修費は、道路や公共施設等を維持するための補修や解体に要した経費で、6,920万円(1.7%)です。

減価償却費は、バランスシートで経理している有形固定資産の減価償却額3億9,256万円(9.6%)を計上しています。従来の「現金主義」による経理方法は、現金を支出した年度に支出額を計上しましたが、行政コスト計算書では「発生主義」により経理するため、資産を利用する複数年の期間に支出額を割り振って経理しています。このため減価償却費という現金支出を伴わないコストが発生しています。

③ 移転支出的なコスト

補助金等は12億3,579万円(30.3%)で、主に水道事業・甘楽西部環境衛生施設組合・富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合・下仁田南牧医療事務組合・群馬県後期高齢者医療広域連合に対する支出が大きな割合を占めています。

社会保障給付は、児童にかかる給付(児童手当など)、障害者にかかる給付(障害者自立支援給付など)、高齢者にかかる給付(老人保護措置費など)、扶助の対象となる方に現金や物品を支給する経費で3億0,094万円(7.4%)です。

他会計への支出額は、国民健康保険・介護保健・後期高齢者医療・浄化槽整備事業への支出で3億0,607万円(7.5%)になります。

その他は、庁用車の重量税や、道路改良等伴う電柱等の移転費用で189万円(0.0%)です。

当町では補助金等及び他会計等への支出額の占める割合が大きいことから、行政サービスの多くが、特別会計や一部事務組合等を通じて提供されていることが分かります。

【各会計等への支出額】

(単位：千円)

区	分	平成30年度支出	令和元年度支出	増減
特別会計等 (他会計等への 繰出金)	国民健康保険特別会計	65,802	62,959	△ 2,843
	後期高齢者医療特別会計	55,150	47,879	△ 7,271
	介護保険特別会計	161,940	189,247	27,307
	浄化槽整備事業特別会計	6,032	5,988	△ 44
	小計	288,924	306,073	17,149
公営企業・ 一部事務組合 (補助金等)	水道事業会計	88,352	81,255	△ 7,097
	うち出資分	28,064	27,525	△ 539
	ガス事業会計	690		△ 690
	甘楽西部環境衛生施設組合	171,233	169,328	△ 1,905
	下仁田南牧医療事務組合	347,720	347,462	△ 258
	うち出資分	47,978	48,458	480
	富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合	216,045	211,978	△ 4,067
	群馬県市町村総合事務組合	3,979	3,979	
	群馬県後期高齢者医療広域連合	148,996	145,334	△ 3,662
	小計	977,015	959,336	△ 17,679
	小計(出資除く)	900,973	883,353	△ 17,620
合計		1,265,939	1,265,409	△ 530
合計(出資除く)		1,189,897	1,189,426	△ 471

④ その他の行政コスト

支払利息は、町債及び一時借入金の利子償還金で2,847万円(0.7%)です。

徴収不能引当金繰入額は、バランスシートの今年度徴収不能引当金繰入額から前年度徴収不能引当金繰入額を除き、今年度の不納欠損額を加えた額で17万円(0.0%)です。

その他は、過年度の確定申告や住民税申告による還付金、国庫補助金等の交付額決定による返還金等で、2,302万円(0.6%)です。

＜＜経常収益の部＞＞

① 使用料・手数料

公共施設を利用した際に徴収する料金や、証明書の発行手数料等の調定額で3,870万円です。

② その他

基金運用収入などの財産運用収入や、貸付金元利収入を除く諸収入の計であり、1億0,261万円です。

<<臨時損失・利益の部>>

① 災害普及事業費

災害復旧に関する費用です。令和元年度は、台風19号災害に係る費用が計上されています。

② 資産除売却損

資産の売却による収入が帳簿価格を下回る場合の差額及び除却した資産の除却時の帳簿価格で4,712万円です。

③ 投資損失引当金繰入額・損失補償等引当金繰入額

投資損失引当金及び損失補償等引当金の当該年度発生額であり、当町では該当有りません。

④ 資産売却益

不動産以外の財産売り払い収入で0万円です。

<<純行政コストの部>>

純行政コストは、行政サービスの提供のために投入された経常行政コストに対して、その対価として直接的に収益された使用料などの差と臨時の損失・利益を加味して表され、42億1,835万円となります。

3. 純資産変動計算書

(1) 純資産変動計算書とは

純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産の部」について、会計年度中の動きを示したものです。

(2) 純資産変動計算書の概要

【普通会計純資産変動計算書】

(単位：千円)

費目	合計	固定資産等 形成分	余剰分 (不足分)
期首純資産残高	9,942,524	16,835,714	△ 6,893,190
純行政コスト (△)	△ 4,218,349		△ 4,218,349
財源			
税収等	3,886,902		3,886,902
国県等補助金	698,842		698,842
本年度差額	367,395		367,395
固定資産等への変動 (内部変動)			
有形固定資産等の増加		2,721,470	△ 2,721,470
有形固定資産等の減少		△ 2,518,808	2,518,808
貸付金・基金等の増加		41,302	△ 41,302
貸付金・基金等の減少		△ 19,183	19,183
資産評価差額			
その他			
本年度純資産変動額	362,182	219,569	142,613
期末純資産残高	10,304,706	17,055,283	△ 6,750,577

① 表頭見出しについて

表頭の固定資産等形成分及び余剰分(不足分)は、貸借対照表の前年及び当年の「純資産の部」の額です。

② 純行政コスト

行政コスト計算書の純行政コストと連動しています。

③ 税収等

税収等は、地方税、地方交付税及び地方譲与税等をいいます。

④ 国県等補助金

国庫支出金及び県支出金等をいいます。

⑤ 有形固定資産の増加

有形固定資産等保有資産の増加額や資産形成のために支出した金額です。

⑥ 有形固定資産の減少

保有資産の減価償却額や、売却収入等です。

⑥ 貸付金・基金等の増加・減少

貸付金・基金等の形成に係る資産の増加額や、取り崩し等による減少額です。

4. 資金収支計算書

(1) 資金収支計算書とは

資金収支計算書は、当年度の支出をその性質に応じて「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」に区分し、実際の現金の流れを追っています。

行政コスト計算書にあるような発生主義に基づく減価償却や引当金の繰入額などは計上されません。

(2) 資金収支計算書の概要

【普通会計資金収支計算書】

(単位:千円)

1 業務活動収支の部	平成30年度末	令和元年度末	増減
業務支出	3,690,985	3,711,815	20,830
業務費用支出	1,814,241	1,843,560	29,319
人件費	948,242	956,770	8,528
物件費	823,367	844,177	20,810
支払利息等	33,717	28,466	△ 5,251
その他支出	8,915	14,147	5,232
移転費用支出	1,876,744	1,868,255	△ 8,489
補助金等支出	1,284,617	1,259,350	△ 25,267
社会保障給付支出	302,761	300,941	△ 1,820
他会計への繰出支出	288,924	306,073	17,149
その他支出	442	1,891	1,449
業務収入	4,202,342	4,681,294	478,952
税収等収入	3,475,246	3,888,033	412,787
国県等補助金収入	596,078	627,183	31,105
使用料及び手数料収入	37,039	38,628	1,589
その他収入	93,979	127,450	33,471
臨時支出	0	232,136	232,136
災害復旧事業費支出	0	232,136	232,136
その他支出	0	0	0
臨時収入	0	0	0
経常的収支額	511,357	737,343	225,986

2 投資活動収支の部	平成30年度末	令和元年度末	増減
投資活動支出	709,254	849,250	139,996
公共施設等整備費支出	528,042	236,191	△ 291,851
基金積立金支出	104,170	536,076	431,906
投資及び出資金支出	76,042	75,983	△ 59
貸付金支出	1,000	1,000	0
その他の支出	0	0	0
投資活動収入	312,432	230,070	△ 82,362
国県等補助金収入	210,326	71,659	△ 138,667
基金取崩収入	101,106	132,512	31,406
貸付金元金回収収入	1,000	1,000	0
資産売却収入	0	24,899	24,899
その他の収入	0	0	0
投資活動収支額	△ 396,822	△ 619,180	△ 222,358

3 財務活動収支の部	平成30年度末	令和元年度末	増減
財務活動支出	612,261	631,761	19,500
地方債償還支出	612,261	631,761	19,500
その他の支出	0	0	0
財務活動収入	554,800	505,800	△ 49,000
地方債発行収入	554,800	505,800	△ 49,000
その他の収入	0	0	0
財務活動収支額	△ 57,461	△ 125,961	△ 68,500

本年度資金収支額	57,074	△ 7,798	△ 64,872
前年度末資金残高	45,960	103,034	57,074
本年度末資金残高	103,034	95,236	△ 7,798

前年度末歳計外現金残高	21,183	21,174	△ 9
本年度歳計外現金増減額	△ 9	△ 1,006	△ 997
本年度末歳計外現金残高	21,174	20,168	△ 1,006
本年度末現金預金残高	124,208	115,404	△ 8,804

① 業務活動収支の部

支出では、人件費や物件費、社会保障給付費といった経常的な経費が計上されますが、人件費、特別会計への繰出金や一部事務組合への補助金等が大きな部分を占めています。

収入では、地方税・地方交付税がその大部分を占めています。

当年度の経常的収支額は黒字となります。黒字ということは経常的な支出は経常的な収入で賄えていることを意味しています。また、この黒字額は、一般財源として投資活動支出に充てられます。

② 投資活動収支の部

投資活動収支は、資産形成に係る支出とその財源です。

収入では、公共資産整備の財源となった国県等補助金や基金取崩収入が計上されますが、事業充当された地方債は財務活動収支に計上されるため収支のマイナスが大きくなります。

収支のマイナス分については経常的収支及び財務活動収支の黒字分で賄われたと考えられます。収支がプラスになった場合、財源の過充当が発生している可能性がありますので注意が必要です。

③ 財務活動収支の部

支出は地方債の元金償還であり、収入は地方債の発行収入となっています。

④ 当年度歳計現金増減額等

本年度末歳計現金残高はバランスシートの現金預金と一致します。